

ココロもからだも変わり始める
“10歳”の女の子のイマを切り取る



2019
年版





10歳は女の子にとって、からだが変化し始めるだけでなく、「環境面」や「心理面」でも大きな変化を迎える時期です。

また、さまざまな情報が取り巻く中で、親世代との意識のギャップが出てくる頃でもあります。

ワコールでは、10歳の女の子たちとその親世代に向けて輝やかな未来につながる大切なことを知ってもらう「10歳の未来プロジェクト」を2015年から行っています。

このプロジェクトの一環である、「10歳キラキラ白書」は

ワコールのWEBサイト上で実施した意識調査を基に

10歳の女の子の実態を顕在化し、

親子の関係性も紐解きながら、

コミュニケーションの在り方を提案しています。

ずっと良好な親子関係であり続けることを目的として

イマドキの10歳の女の子事情をご紹介します。

「10歳キラキラ白書 2019年版」概要

現在の日本では、女性の社会進出に伴い、共働き家庭が増加。

家事や育児は女性だけのものではなく、

男性も参加し、分担している家庭が増えています。

本白書では、これまでは「“母娘”におけるコミュニケーションの在り方」について

提案を行ってきましたが、こうした社会背景、生活の変化をふまえ、

今回は、父娘にフォーカス。

「10歳キラキラ白書 2019年版」では、

“10歳女子が描く、結婚観・仕事観と、それに及ぼす父親の影響”

について、目白大学の小野寺教授監修・分析のもと、

10歳を中心とした成長期の女の子の意識調査を実施。

父娘間のコミュニケーションも、

子どもたちの意識や考え方の形成に、

少なからず影響があることが見えてきました。

主な 調査結果

■ 母親が働いている女の子の多くは、
自分も一生働きたいと思っている。



■ 父親の家事への参加と母親が働いていることが、
娘の“非伝統的性役割観”の形成に影響を与えている。

■ 10歳女子の「ジェンダー意識」を紐解くと、
10歳女子は「女の子らしさ」の意識が高い傾向に。



● “非伝統的性役割観”とは？

「性役割」とは、その性別に社会的に期待されている役割のことを指します。

“伝統的性役割観”は、「性役割」の考え方のひとつで、例えば「女性は結婚したら仕事をやめるもの」、

「家事・育児は女性がやるもの」といったものになります。一方、“非伝統的性役割”はその逆で、

例えば「女性は結婚しても働き続けるもの」という考え方になります。

調査概要

□調査期間：2018年8月～12月

□対象：ワコールが運営する小学生・中学生の女の子向け下着の悩みを解決するサイト

「ガールズばでなび (<https://www.wacoal.jp/girlsbody>)」

訪問者5歳～18歳の女子3,963名(10歳=386名)

□方法：インターネット調査

【10歳キラキラ白書 2019年版】

https://www.wacoal.jp/girlsbody/oyanavi/10yearold_whitepaper/

イマドキの女の子の将来像って？

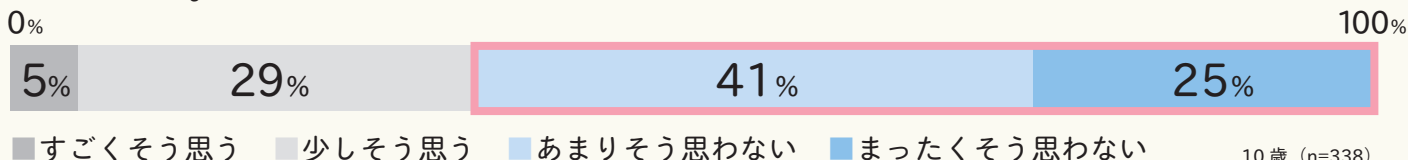
子どもの“非伝統的性役割観”には働く母親の存在が影響

10歳女子の6割は結婚・出産を機に仕事を辞める必要はないと感じている。

「女子は結婚をして子どもが生まれたら仕事を辞めた方が良くと思う？」という問いに対して、10歳女子の6割以上（66%）が「そう思わない」と回答しました。



Q. 女子は結婚して子どもが生まれたら仕事を辞めた方が良くと思う？（単一回答）

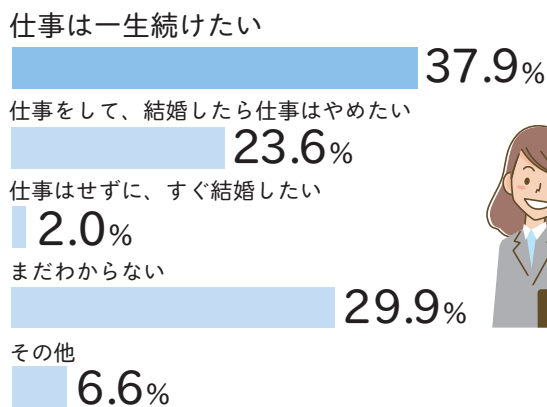


イマドキの女の子は、働き続けたい願望が高い結果に！

母親の働く姿は、子どもの“非伝統的性役割観”の形成に影響を与えている。

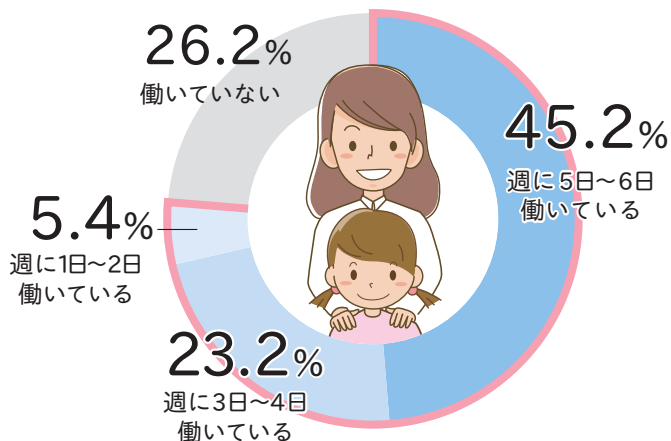
「あなたの将来のイメージを教えてね」という質問に対し「仕事は一生続けたい」という回答が最も多い結果に。「お母さんは働いていますか？」という質問に対しては、「働いている」が全体の7割以上（76.3%）（10歳女子では73.8%）という結果でした。また、一生働きたいと回答した10歳女子の8割（80%）の母親は働いていることがわかりました。働く母親の存在が、子どもの「女性は結婚しても働き続けるもの」という、“非伝統的性役割観”の形成に繋がっていると考えられます。

Q. あなたの将来のイメージを教えてね
（単一回答）



10歳 (n=335)

Q. お母さんは働いていますか？
（単一回答）



10歳 (n=332)

10歳女子の7割以上（73.8%）の母親は働いている。

仕事は一生続けたいという10歳女子の母親の8割（80%）は働いている。



お母さんが働いている家庭の子供は、将来働き続けたい願望が高い。

女の子に、将来の夢を尋ねると「お嫁さんに行って良いお母さんになること」という答えが返ってきていた時代は、今や過去の話になりました。イマドキ10歳女子は、「子育てをしながら仕事もやっていきたい」というキャリア志向をすでにもっているようです。



小野寺先生

母親だけではない！！

“非伝統的性役割観”を育むのは、父親の家事参加も影響

「父親の家事への参加」と「母親が働いている」ことが、10歳女子の“非伝統的性役割観”の形成に影響を与えている。

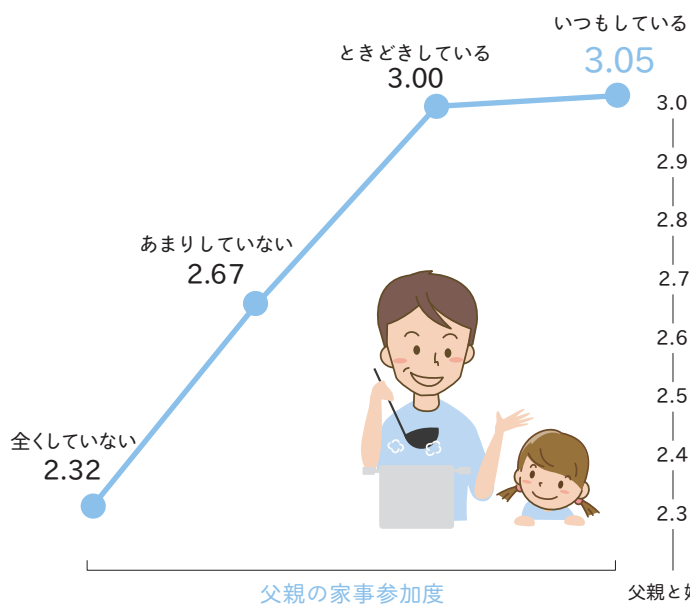
前頁より、イマドキの女の子は「一生働きたい」という考えが強く、“非伝統的性役割観”を持っていることが多いことがわかりました。“非伝統的性役割観”を持つようになるには、2つの要素が影響していました。1つ目は「父親が家事に参加している」こと、2つ目は「母親が働いている」ということが将来の結婚観・仕事観に影響を及ぼすようです。



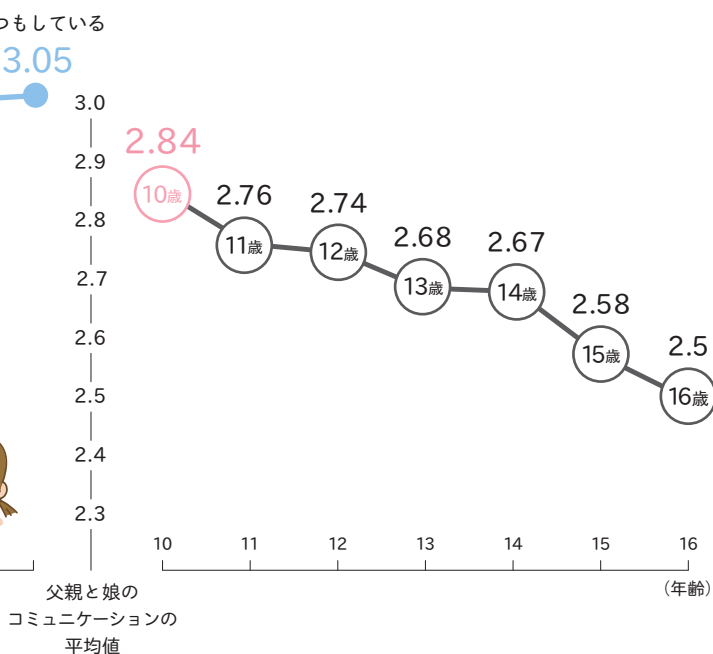
家事に参加する父親は、娘とのコミュニケーションが多い。

父親と娘のコミュニケーション（会話する、一緒に外出する）量は、父親の家事参加度に大きく関係していることがわかりました。また父親と娘とのコミュニケーション量は10歳から減少する結果に。

父親の家事参加度と父親とのコミュニケーション量との関係



父親とのコミュニケーション量の年齢別変化



地震、雷、火事、おやじと言われて怖いものの一つに数えられていた父親ですが、最近の父親は、保育園の送迎をしたり、子どもと一緒に公園で遊んだり、楽しくそして優しく子どもにかかわっています。そうした父親が家事を積極的にやる姿をみて、娘は新しい男性像・結婚観を知らず知らずのうちにイメージするようになっていきます。



小野寺先生

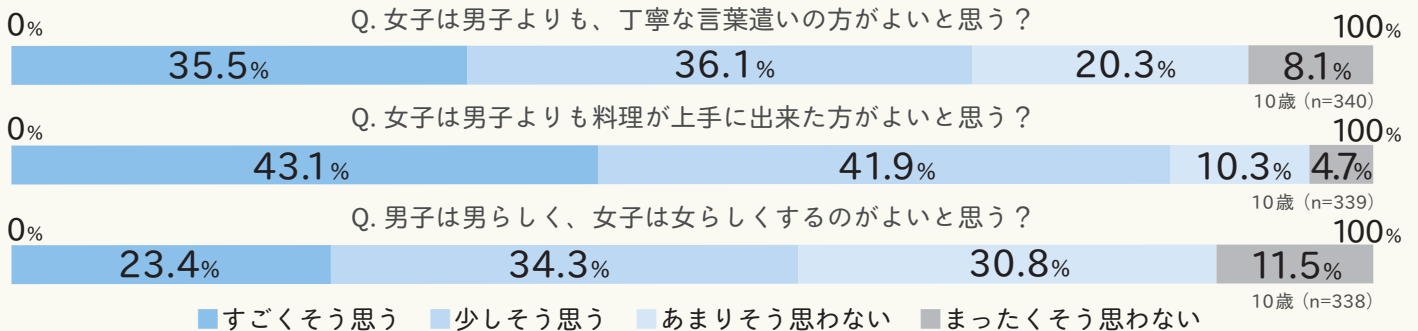
性役割観のもうひとつの側面

10歳女子の「ジェンダー意識」を紐解く

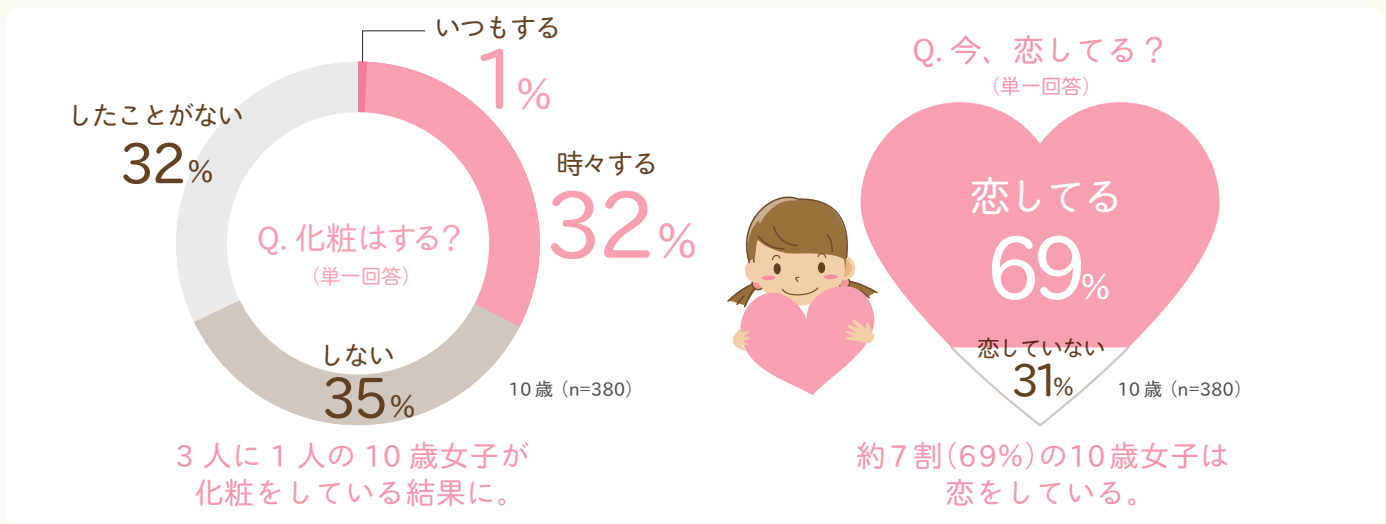
これまでの頁では、性役割観の「性別役割分業（例：結婚して子どもをもっても仕事は続けていきたい）」という観点から10歳女子の結婚観・仕事観を分析してきましたが、性役割観のもうひとつの側面である「ジェンダー意識（例：女の子は丁寧な言葉遣いをした方がよいなどの「〇〇らしさ）」についての結果を紹介します。

10歳女子は「女の子らしさ」の意識が高い傾向に。

10歳女子は「女子は男子よりも丁寧な言葉遣いの方が良い」と思うが7割以上（71.6%）、「女子は男子よりも料理が上手に出来た方がいい」と思うが8割以上（85%）、「男子は男らしく、女子は女らしくするのが良い」と思うが過半数以上（57.7%）という結果になりました。

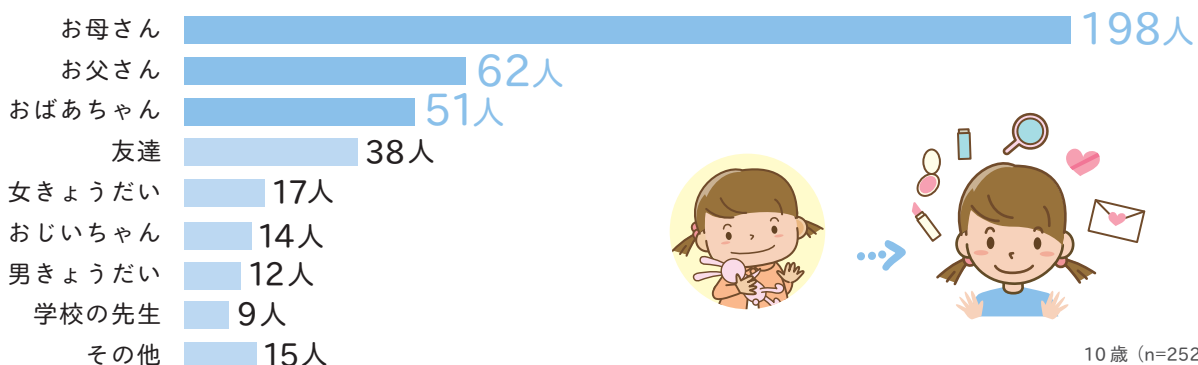


10歳女子の約3割は化粧、約7割は恋をしている。



10歳女子は、周囲の様々な人から「女の子らしくしなさい」と言われています。

Q. 「女の子らしくしなさい」と言われる場合、誰から言われますか？（複数回答）



10歳女子は「ジェンダー意識」が比較的高い結果になりました。そして「化粧をする」「恋をしている」の両方の得点を合わせて「おませさん得点」として、ジェンダー意識との関連をみたところ、ジェンダー意識の高い女子は「おませさん得点」も高いことがわかりました。



小野寺先生

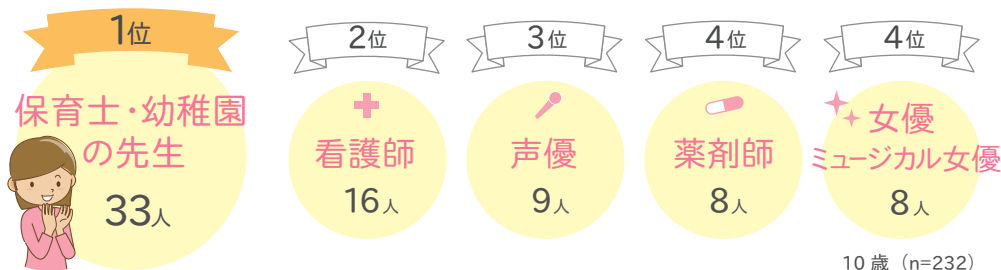
10歳の女の子のイマを切り取る

将来の夢

なりたい職業 No.1は保育士・幼稚園の先生

将来なりたい職業を聞いたところ、1位は「保育士」・「幼稚園の先生」という結果になりました。

Q. 将来なりたい職業は？（自由回答、複数回答）



2018年ランキング

- ① デザイナー
- ② 教師
- ③ モデル
- ④ 看護師
- ⑤ 医者

恋愛

理想の結婚年齢は25歳。 平均は24.8歳

理想の結婚年齢は25歳。

10歳女子回答者の理想結婚年齢を平均すると24.8歳で、昨年よりも1.6歳上がっている結果となりました。

Q. 結婚するなら何歳が理想？（自由回答）



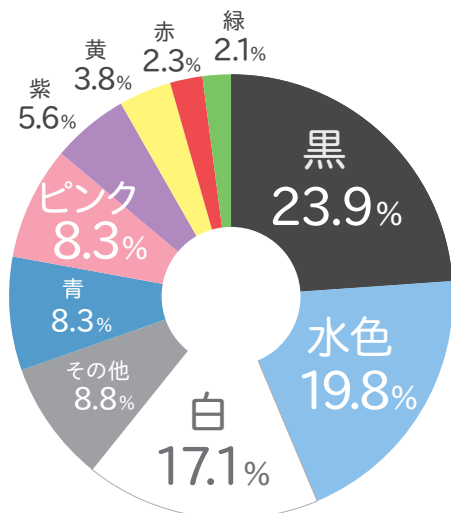
好きな色

女の子が最も好きな色は黒。意外にもピンクはランク外。

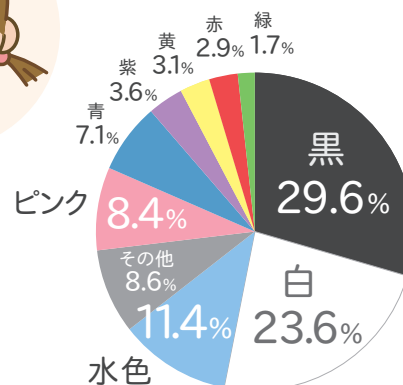
10歳女子の好きな色は「黒」という結果になりました。

また「水色」、「白」などクリアな印象の配色も好む傾向が強いようです。ピンクは5位でした。

Q. 洋服で一番好きな色は何色ですか？
（単一回答）



5歳～18歳までの女の子たちの結果でも、同じく「黒」が1位となりました。



小野寺敦子先生解説

今回の「10歳キラキラ白書 2019年版」で明らかになったポイント

1. 今回の調査でとりあげた性役割観の2側面、「性別役割分業」と「ジェンダー意識」の形成には、それぞれ異なる要因が関係していることがわかりました。

①10歳女子の非伝統的役割分業意識(例:結婚して子どもをもっても仕事は続けていきたい)に影響を与えていたのは、「父親の家事参加」と「母親が仕事をしていること」でした。お母さんが仕事から帰ってきて忙しくしていると、お父さんが夕飯の準備をしたり風呂掃除などを自ら積極的にやっている姿を、幼い時から見て育つと、男女の家事分担は当たり前だという考えが女子の中に育ってくると考えられます。

②「ジェンダー意識」(例:女の子は丁寧な言葉遣いをした方がよいなどの「〇〇らしさ」)には、上記の「父親の家事参加」や「母親が仕事をしている」ことは関連していませんでした。しかし女の子らしくすることを心がけている10歳女子は、小さな頃からお人形遊びやままごとなど家の中での遊びをよくしていました。またこの「〇〇らしさ」得点の高い女子は、「化粧をしている」「恋をしている」という項目からなる「おませさん得点」が高い傾向がありました。お母さんやおばあちゃんといった周囲の人から「女の子らしくしなさい」と言われることが、ジェンダー意識の形成に影響を与えているようです。

2. かつて女の子には赤かピンク、男の子には青か黒といった色のステレオタイプがありましたが、今どき女子が最も好きな色として選んだのが「黒」「水色」「白」でした。そういうモノトーンの色が好きな女子には、女だから・男だからという考え方はもはや通用しなくなっているようです。

3. 10歳から16歳女子の中で10歳女子が一番お父さんとのコミュニケーションが高く、その後、低下していました。そして父親とのコミュニケーションがよくとれている10歳女子ほど「自分のカラダが好き」「毎日が楽しい」と回答していました。小野寺のこれまでの研究でも、父親は娘の異性観・結婚観やキャリア意識にも影響を与えていることが明らかになっています。お父さんたちも娘とのコミュニケーションの大切さを再認識してほしいと思います。

総括

今の10歳女子が、将来、結婚・子育て・仕事をしながら充実した生活を送っていくには、私たち親自身が女だから / 男だからという意識で子どもを育てるのではなく、「自分らしさ」を大切にしている姿を子どもたちに示すことが必要になるのではないのでしょうか。しかしその中で、女性としての細やかな心遣いや思いやりといった「〇〇らしさ」も忘れてはいけないはずです。長い人生において、人としてそして女性として自分らしく輝いて生きていく上で、10歳はとて大切な年齢です。私たち大人は、10歳女子の心身の成長を暖かく見守って応援していきましょう。



小野寺 敦子先生

プロフィール

目白大学 人間学部 心理カウンセリング学科 教授

東京都生まれ。1984年東京都立大学大学院博士課程修了。心理学専攻、心理学博士。専門は発達心理学、家族心理学。

【主な書籍】

「パパのための娘トリセツ」(講談社)

「エゴレジリエンスでメゲない自分をつくる本」(一藝社)

「小学生のことがまるごとわかる55のキーワード」(金子書房)ほか

10歳キラキラ白書